



The 27th Meeting of the Japanese Society of Psychosomatic Dentistry

第27回 日本歯科心身医学会 総会・学術大会

会 期 ● 2012年 9月1日(土)・2日(日)

会 場 ● 川越東武ホテル

埼玉県川越市脇田町29-1

大会長 ● 藤澤 政紀

明海大学歯学部 機能保存回復学講座
歯科補綴学分野

後 援 ● 埼玉県歯科医師会

川越市歯科医師会

埼玉県歯科衛生士会

明海大学歯学部同窓会

日常臨床にもっと歯科心身医学のTipsを





The 27th Meeting of
the Japanese Society of
Psychosomatic Dentistry

第27回 日本歯科心身医学会 総会・学術大会

日常臨床にもっと歯科心身医学のTipsを

会 期 ● 2012年 9月1日(土)・2日(日)

会 場 ● 川越東武ホテル
埼玉県川越市脇田町29-1

大会長 ● 藤澤 政紀
明海大学歯学部 機能保存回復学講座
歯科補綴学分野

後 援 ● 埼玉県歯科医師会
川越市歯科医師会
埼玉県歯科衛生士会
明海大学歯学部同窓会

● 第27回日本歯科心身医学会総会・学術大会事務局
明海大学歯学部 機能保存回復学講座
歯科補綴学分野
実行委員長 岩瀬 直樹 準備委員長 岡本 和彦
〒350-0283 埼玉県坂戸市けやき台1-1
TEL: 049-285-5511 FAX: 049-279-2751
E-mail: 27shikashinshin@dent.meikai.ac.jp

INDEX

ご挨拶 1

日本歯科心身医学会担当校 2

参加の皆様へ 3

会場アクセス図 6

会場案内図 7

日 程 表 8

プログラム 10

講演抄録

特別講演 18

教育講演 20

シンポジウム 23

一般口演(1日目) 34

一般口演(2日目) 52

協賛企業一覧 64

ご挨拶

第27回日本歯科心身医学会総会・学術大会の開催にあたって

大会長 藤澤 政紀

明海大学歯学部機能保存回復学講座 歯科補綴学分野

第27回日本歯科心身医学会総会・学術大会を平成24年9月1日(土)、2日(日)の両日、埼玉県川越市の川越東武ホテルで開催いたします。例年の開催期日よりすこし遅めの開催ですが、おかげさまで28題の一般口演をご発表いただけることになりました。

痛みを主訴とする医療機関への通院に関する調査では、歯科が最も多いと言われます。そのような患者さんの悩み、苦しみを理解し、時には寄り添って治療を行う際に歯科心身医学会の活動が大きく貢献することとなります。その情報収集の場としてまた情報発信の場として、関心を持つ方々が一堂に会してディスカッションを深める機会になるものと思われま

す。歯科心身医学の守備範囲は歯科全般に及びます。臨床に大きく貢献する学術大会といった観点から、今回の学術大会のテーマを「日常臨床にもっと歯科心身医学の Tips を」といたしました。学問体系としての充実は当然必要ですが、本学会が目的とする「歯科心身医学の発展と普及を図り、国民の歯科保健福祉の増進に寄与する」ために、歯科心身医学が日常の歯科臨床にどのように浸透できるかを今一度見つめる機会になれば、と思います。

本学術大会では、特別講演として岩手医科大学名誉教授の石橋寛二先生に「顎口腔のバイオフィードバックをはかる」と題して長年の臨床および臨床研究の集大成をご講演いただきます。また、従来学術大会とは独立して開催されていた研修会を、教育後援会と兼ねて開催いたします。講師にはテレビ等でも活躍のインプレッショントレーナー重田みゆき先生に「一顔グセの法則— インプレッショントレーニング®」と題する、実習を含めた講演をお願いしました。さらに歯科臨床のなかでも大きな関心事の一つである「咬合違和感」をテーマにシンポジウムを企画しました。咬合違和感を訴える患者さんに対応したところのある方も少なからずおられることでありま

しょう。今回のシンポジウムには大きな期待が寄せられます。歯科臨床に携わる方々が一堂に会して歯科臨床のそして歯科医学の明日に向けての前向きな意見交換ができ、前向きに歯科臨床に取り組むための Tips を掴んでいただく機会になれば幸いです。

開催地の川越は、別名を小江戸といい、江戸情緒を色濃く残した歴史的趣のある街です。蔵づくりの街並み、時の鐘、菓子屋横町、喜多院などが学会会場からほど近い場所にありま

日本歯科心身医学会担当校

回	開 催 日	開催地	大 会 長	所 属
第1回	昭和61年7月12日(土)	東 京	内田 安信	東京医科大学口腔外科学教室
第2回	昭和62年7月10日(金)、11日(土)	東 京	久野 吉雄	日本歯科大学歯学部口腔外科学講座
第3回	昭和63年7月1日(金)、2日(土)	東 京	杉浦 正己	日本大学歯学部口腔診断科
第4回	平成元年7月13日(木)、14日(金)	横 浜	瀬戸 皖一	鶴見大学歯学部第1口腔外科学教室
第5回	平成2年7月13日(金)、14日(土)	福 岡	都 温彦	福岡大学歯学部歯科口腔外科学教室
第6回	平成3年7月11日(木)、12日(金)	東 京	久保田康耶	東京医科歯科大学歯学部歯科麻酔学教室
第7回	平成4年7月11日(土)、12日(日)	名古屋	黒須 一夫	愛知学院大学歯学部小児歯科学教室
第8回	平成5年8月26日(木)、27日(金)、28日(土)	盛 岡	石川富士郎	岩手医科大学歯学部歯科矯正学講座
第9回	平成6年7月18日(月)、19日(火)、20日(水)	東 京	小林 雅文	日本大学歯学部薬理学教室
第10回	平成7年7月27日(木)、28日(金)	名古屋	深谷 昌彦	愛知学院大学歯学部口腔外科学第1講座
第11回	平成8年7月25日(木)、26日(金)	東 京	藍 稔	東京医科歯科大学歯学部歯科補綴学第1講座
第12回	平成9年7月25日(金)、26日(土)	新 潟	下岡 正八	日本歯科大学新潟歯学部小児歯科学教室
第13回	平成10年7月17日(金)、18日(土)	盛 岡	石橋 寛二	岩手医科大学歯学部歯科補綴学第2講座
第14回	平成11年7月17日(土)、18日(日)	大 阪	川本 達雄	大阪歯科大学歯科矯正学教室
第15回	平成12年7月14日(金)、15日(土)	福 岡	亀山 忠光	久留米大学医学部口腔外科学講座
第16回	平成13年7月7日(土)、8日(日)	東 京	工藤 逸郎	日本大学総合科学研究所
第17回	平成14年7月5日(金)、6日(土)	東 京	扇内 秀樹	東京女子医科大学医学部歯科口腔外科学教室
第18回	平成15年6月28日(土)、29日(日)	東 京	小林 義典	日本歯科大学歯科補綴学第1講座
第19回	平成16年7月17日(土)、18日(日)	東 京	永井 哲夫	慶應義塾大学医学部歯科口腔外科学教室
第20回	平成17年7月16日(土)、17日(日)	名古屋	土屋 友幸	愛知学院大学歯学部小児歯科学講座
第21回	平成18年7月15日(土)、16日(日)	北九州	横田 誠	九州歯科大学歯周病制御再建学分野
第22回	平成19年3月17日(土)、18日(日)	東 京	田邊 晴康	東京慈恵会医科大学歯科学教室
第23回	平成20年7月19日(土)、20日(日)	東 京	山根 源之	東京歯科大学歯学部 オーラルメディスン・口腔外科学講座
第24回	平成21年6月6日(土)、7日(日)	東 京	小池 一喜	日本大学歯学部口腔診断学講座
第25回	平成22年7月17日(土)、18日(日)	広 島	香西 克之	広島大学大学院医歯薬学総合研究科 顎口腔顎部医学講座小児歯科学
第26回	平成23年7月16日(土)、17日(日)	札 幌	安彦 善裕	北海道医療大学歯学部生体機能・病態学系 高齢者・有病者歯科学分野
第27回	平成24年9月1日(土)、2日(日)	川 越	藤澤 政紀	明海大学歯学部機能保存回復学講座 歯科補綴学分野

日本歯科心身医学会総会・学術大会

参加の皆様へ

1. 参加者は学会会場3Fロビー当日受付にて、当日会費をお支払いの上、プログラム・抄録集と学術大会参加証をお受け取り下さい。
参加費を前納された方は、お送りしましたプログラム・抄録集と学会参加証を必ずご持参下さい。
大会参加費：医師、歯科医師（前納会費10,000円 当日会費11,000円）
医師、歯科医師以外（前納会費3,000円 当日会費4,000円）
懇親会参加費：事前登録7,000円 当日登録8,000円
（日本歯科心身医学会会員以外の方で、教育講演のみ参加の方は1,000円を納入し、教育講演参加証をお受け取り下さい。）
2. プログラム・抄録集が別個必要な方には、2,000円で販売いたします。
3. 学術参加証には氏名・所属を記入の上、会場内では首に下げて着用して下さい。
4. 日本歯科心身医学会への新規入会は学会事務局で行っております（入会金1,000円、年会費10,000円）。
5. 学会会場におけるビデオ・写真等は発表者の著作権保護のため禁止にさせていただきます。なお、特別な理由がある場合には、大会長にお申し込み下さい。

一般口演に発表される先生方・座長の先生方へ

1. 会場：芙蓉の間（3F）
2. 演者、共同演者は日本歯科心身医学会会員に限ります。非会員の方はあらかじめ入会手続きをお願いいたします。
3. 事後抄録
発表終了後に、事後抄録を受付にご提出ください。演者は1枚目に演題番号・演題名・所属・演者名（発表者に○、英字併記）を、2・3枚目に20字×20字、800字以内で入力しB5用紙に印刷したものおよび同内容を保存したCD-R（演題番号、演者名を記入）をご提出下さい。提出されない場合は事前抄録を使わせていただきます。

4. PCによる発表について

- 1) ノートパソコンは演者各自でご持参下さい。
- 2) PC接続はMiniD-sub15ピン3列(通常のモニター端子)となります。お持込みのPCの外部モニター出力端子の形状を確認し、必要な場合は接続用の端子をご持参下さい。
- 3) 画面の解像度はXGA(1024×768)です。画面設定はXGAに合わせて下さい。
- 4) OSはWindows(XP、7)、Microsoft Power Point(2007、2010)のみとします。その他のOS、ソフトの使用によるトラブルにつきましては、十分な対応ができない可能性がありますので、ご了承下さい。
- 5) フォントはOS標準のもののみ使用して下さい。
- 6) スライド受付は、3Fロビーにて行います。試写をお願いいたします。発表の1時間前までにお願いいたします(時間厳守)。動画や音声をご使用になる場合は、お申し出下さい。
- 7) 口演時間は、発表7分、質疑応答3分です。時間厳守をお願いいたします。口演終了1分前；呼び鈴1回、口演終了時；呼び鈴2回にてお知らせします。
- 8) 次演者は、発表の10分前までに次演者席にてお待ち下さい。
- 9) 発表では液晶プロジェクター(1面映写)のみを使用します。発表時の操作はご自身でお願いします。

5. 質疑・応答について

発言者は座長の許可を得てから、所定のマイクで所属・氏名を明らかにして発言して下さい。

6. 座長の先生は、予定時刻の15分前までに次座長席にお越し下さい。

懇親会について

下記の要綱にて開催いたします。皆様のご出席をお待ちしております。

御参加される方は懇親会受付(2Fロビー、16:00～)にてお申込み下さい。

懇親会会費を前納された方は懇親会受付にて手続きを済ませ、領収書をお受け取りください。

日 時：平成24年9月1日(土) 18:00～20:00

会 場：川越東武ホテル 光琳の間(2F)

当日登録：8,000円

総会・役員会について

(1日目)

理事会：平成24年9月1日(土) 9:00～10:30
会場：川越東武ホテル 瑞光の間(3F)

(2日目)

評議員会：平成24年9月2日(日) 12:20～13:20
会場：川越東武ホテル 瑞光の間(3F)
総会：平成24年9月2日(日) 13:20～13:50
会場：川越東武ホテル 芙蓉の間(3F)

研修会について

今学術大会では教育講演と兼ねさせていただきます。研修カードは当日13:15～15:10の間に会場入り口に設置した研修カード入れに入れてください。

日時：平成24年9月1日(土) 13:30～15:05
会場：川越東武ホテル 芙蓉の間(3F)

教育講演 「一顔グセの法則— インプレッショントレーニング®」

株式会社エムスノージャパン 重田みゆき 先生

その他

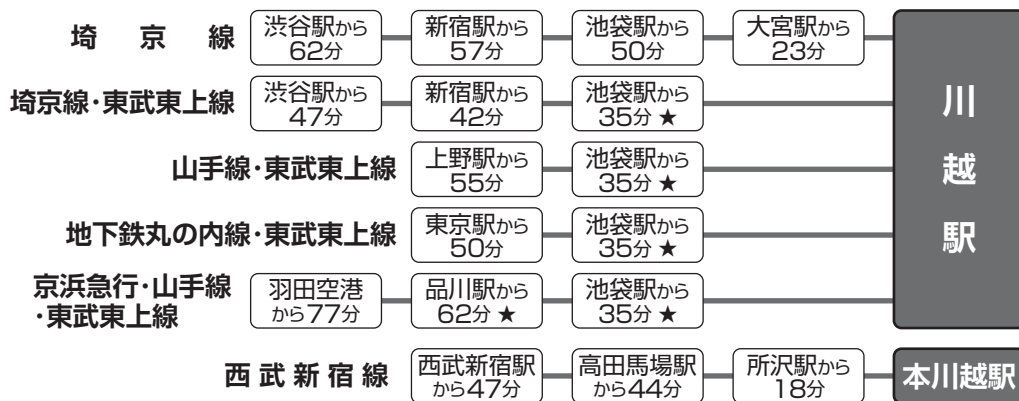
1. 各会場の呼び出しをはじめ、ご質問等は本部受付にご連絡ください。
2. この学会は日本歯科医師会の生涯研修事業の認定を受けております。日本歯科医師会会員の先生は日歯生涯研修IDカードをご持参ください。

会場アクセス図



川越東武ホテル 〒350-1122 埼玉県川越市脇田町29-1
TEL:049-225-0111 FAX:049-225-0607

東武東上線・JR埼京線 川越駅東口より徒歩5分



★印の駅でのお乗換え

※表示はご乗車になっている時間で、乗換え等の待ち時間は含みません。
※各線とも快速・急行等の優等列車をご利用の時間となります。

会場案内図



日 程 表

1日目 平成24年 9月 1日(土) 川越東武ホテル

	3F 芙蓉の間	3F 瑞光の間
9:00		9:00～10:30
10:00		理事会
11:00	10:30～ 受付開始 (3F ロビー)	
	11:15～11:20 開会の辞	
	11:20～11:50 一般口演 1～3 座長：杉本 是明	
12:00	11:55～12:25 一般口演 4～6 座長：依田 哲也	
13:00	昼 休 み	
14:00	13:30～15:05 教育講演 顔グセの法則 —インプレッショントレーニング®— 株式会社エムスノージャパン 重田 みゆき 座長：豊福 明	
15:00	15:10～15:40 一般口演 7～9 座長：安彦 善裕	
16:00	15:50～16:30 一般口演 10～13 座長：高向 和宣	
17:00	16:40～17:20 一般口演 14～17 座長：古賀 千尋	
17:30	18:00～20:00 懇 親 会 会場：2F 光琳の間	

2日目 平成24年 9月 2日(日) 川越東武ホテル

	3F 芙蓉の間	3F 瑞光の間
9:00	9:00～9:40 一般口演 18～21 座長：金村 清孝	
10:00	9:45～10:15 一般口演 22～24 座長：岩瀬 直樹	
11:00	10:20～11:00 一般口演 25～28 座長：楠川 仁悟	
12:00	11:10～12:15 特別講演 顎口腔系のバイオフィードバックをはかる 岩手医科大学名誉教授 石橋 寛二 座長：藤澤 政紀	
13:00		12:20～13:20 評議員会
14:00	13:20～13:50 総 会	
15:00	14:00～15:30 シンポジウム 咬合違和感の実態に迫る コーディネーター：玉置 勝司 玉置 勝司 神奈川歯科大学顎口腔機能修復科学講座 有床義歯補綴学分野 小見山 道 日本大学松戸歯学部顎口腔機能治療学講座 尾口 仁志 鶴見大学歯学部高齢者歯科学講座 佐藤 佑介 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 口腔機能再構築学系摂食機能回復学講座 全部床義歯補綴学分野	
16:00	15:30～ 閉会の辞	

プログラム

平成24年9月1日(土)

10:30

受付開始

11:15～11:20

開会の辞

芙蓉の間(3F)

11:20～11:50

一般口演1～3

芙蓉の間(3F)

座長：杉本 是明

01 当科初診患者の臨床統計的検討

○渡邊 素子¹⁾、片桐 綾乃¹⁾、梅崎 陽二郎¹⁾、竹之下 美穂²⁾、佐久間 朋美²⁾、
酒向 絵美²⁾、豊福 明¹⁾

- 1) 東京医科歯科大学大学院 歯科心身医学分野、
2) 東京医科歯科大学歯学部附属病院 歯科心身医療外来

02 平成21年から平成23年に当科を受診した非定型歯痛患者の臨床的検討

○渡邊 素子¹⁾、竹之下 美穂²⁾、片桐 綾乃¹⁾、梅崎 陽二郎¹⁾、酒向 絵美²⁾、
佐久間 朋美²⁾、佐藤 佑介³⁾、豊福 明^{1,2)}

- 1) 東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 歯科心身医学分野、
2) 東京医科歯科大学歯学部附属病院 歯科心身医療外来、
3) 東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 全部床義歯学分野

03 口腔内愁訴を呈した身体表現性障害の臨床的検討

○津山 治己¹⁾、武井 雄介¹⁾、古賀 千尋²⁾、中村 芳明³⁾、楠川 仁悟¹⁾、
高向 和宜⁴⁾

- 1) 久留米大学医学部歯科口腔医療センター、2) 福岡歯科大学口腔医療センター、
3) 高木病院歯科口腔外科、4) たかむきメンタルクリニック

11:55～12:25

一般口演4～6

芙蓉の間(3F)

座長：依田 哲也

04 精神疾患簡易構造化面接法を用いた口腔および顔面領域に対する 痛患者の心身医学的アプローチ

○田中 裕¹⁾、瀬尾 憲司¹⁾、村松 芳幸²⁾、村松 公美子³⁾

- 1) 新潟大学大学院医歯学総合研究科 口腔生命科学専攻顎顔面再建学講座歯科麻酔学分野、
2) 新潟大学医学部 保健学科、3) 新潟青陵大学大学院

05 プレガバリンを第一選択薬としアミトリプチリンの併用によって 奏功した非定型歯痛の1例

○加藤 雄一、永島 未来、石川 結子、吉田 和正、小川 智久、大津 光寛、
石井 隆資、羽村 章、岡田 智雄

日本歯科大学附属病院 心療歯科診療センター

06 非定型歯痛に対する SSRI とベンゾジアゼピン系抗不安薬の併用療法

○阿部 圭吾、山崎 裕、秦 浩信、坂田 健一郎、村田 翼、北川 善政
北海道大学大学院歯学研究科 口腔診断内科学教室

12:25～13:30 昼 休 み

13:30～15:05 教育講演

芙蓉の間 (3F)

座長：豊福 明

「顔グセの法則 —インプレッショントレーニング®—」

重田みゆき 株式会社エムスノージャパン

15:10～15:40 一般口演7～9

芙蓉の間 (3F)

座長：安彦 善裕

07 精神神経科にてうつ病加療中に生じたカンジダ性舌炎の1例

○上野 繭美¹⁾、江川 正義¹⁾、吉川 浩郎²⁾、吉野 綾²⁾、関根 浄治^{1,2)}

1) 島根大学医学部附属病院 歯科口腔外科 オーラルメディシン外来、

2) 島根大学医学部 歯科口腔外科学講座

08 福岡歯科大学口腔医療センター口臭科の患者分析および口臭恐怖症の1症例

○米田 雅裕¹⁾、古賀 千尋¹⁾、鈴木 奈央²⁾、内藤 徹³⁾、廣藤 卓雄²⁾

1) 福岡歯科大学 口腔医療センター、2) 福岡歯科大学総合歯科学講座 総合歯科学分野、

3) 福岡歯科大学総合歯科学講座 高齢者歯科学分野

09 緩和ケアにおける口腔ケアを通じた終末期患者・家族のメンタルサポートについて

○横田 雅実^{1,2)}、木村 真人¹⁾

1) 日本医科大学千葉北総病院メンタルヘルス科、2) 小林歯科医院

15:50～16:30 一般口演10～13

芙蓉の間 (3F)

座長：高向 和宣

10 会話時に顎運動障害を呈した身体表現性障害1例

○古賀 千尋¹⁾、米田 雅広¹⁾、野上 堅太郎²⁾、金光 芳郎³⁾、中村 芳明⁴⁾、池辺 哲郎⁵⁾、楠川 仁悟⁶⁾、高向 和宜⁷⁾

1) 福岡歯科大学口腔医療センター、2) 福岡歯科大学診断全身管理学講座、

3) 福岡歯科大学心療内科学講座、4) 高木病院歯科口腔外科、

5) 福岡歯科大学口腔・顎顔面外科学講座、6) 久留米大学医学部歯科口腔医療センター、

7) たかむきメンタルクリニック

11 口腔セネストパチーの Tc-99m ECD SPECT による脳血流所見

○梅崎 陽二郎¹⁾、片桐 綾乃¹⁾、渡邊 素子¹⁾、竹之下 美穂²⁾、佐久間 朋美²⁾、
酒向 絵美²⁾、佐藤 佑介³⁾、豊福 明¹⁾

- 1) 東京医科歯科大学大学院 歯科心身医学分野、
- 2) 東京医科歯科大学歯学部附属病院 歯科心身医療外来、
- 3) 東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科全部床義歯補綴学分野

12 精神科コンサルテーション・リエゾン診療が有効であった セネストパチーの一症例

○富澤 大佑^{1,3)}、川島 正人²⁾、嶋田 昌彦^{1,2)}、館野 周³⁾、大久保 善朗³⁾

- 1) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 疼痛制御学分野、
- 2) 東京医科歯科大学歯学部附属病院 ペインクリニック、3) 日本医科大学精神医学教室

13 歯科治療恐怖症患者の心理・性格因子の分析

○神野 成治¹⁾、原田 あゆみ²⁾、馬見塚 賢一郎²⁾、深山 治久¹⁾

- 1) 東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 麻酔・生体管理学分野、
- 2) 医療法人社団 成扶会 馬見塚デンタルクリニック

16:40～17:20 一般口演 14～17

芙蓉の間 (3F)

座長：古賀 千尋

14 咬合異常感の脳画像研究

○梅崎 陽二郎¹⁾、片桐 綾乃¹⁾、渡邊 素子¹⁾、竹之下 美穂²⁾、佐久間 朋美²⁾、
酒向 絵美²⁾、佐藤 佑介³⁾、豊福 明¹⁾

- 1) 東京医科歯科大学大学院 歯科心身医学分野、
- 2) 東京医科歯科大学歯学部附属病院 歯科心身医療外来、
- 3) 東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科全部床義歯補綴学分野

15 歯科口腔外科臨床における簡易森田療法

○浜田 敦、中野 良信

市立枚方市民病院 歯科口腔外科

16 コンピタンス心理学から見た歯科臨床：第1報 歯科治療恐怖

○中塚 圭

国際医療福祉大学保健医療学専攻

17 治療的自我に対する提言

○牛山 崇

牛山歯科医院

18:00～20:00 懇親会

光琳の間 (2F)

18 日中のクレンチングに対するバイオフィードバック訓練が夜間のブラキシズムに及ぼす影響

- 佐藤 雅介¹⁾、飯塚 知明¹⁾、渡邊 明¹⁾、岩瀬 直樹¹⁾、岡本 和彦²⁾、
島野 偉礎³⁾、藤澤 政紀¹⁾

1, 2) 明海大学歯学部 機能保存回復学講座歯科補綴学分野、3) あさひ歯科クリニック

19 臼歯咬合面の部分的咬合干渉が意識下グライディング時の脳血流に及ぼす影響について：fNIRSによる咬合違和感の定量化の検討

- 小林 剛¹⁾、葉山 莉香²⁾、島田 淳²⁾、澁谷 智明²⁾、和気 裕之²⁾、玉置 勝司^{1,2)}

1) 神奈川歯科大学顎口腔機能修復科学講座有床義歯補綴学分野、
2) 神奈川歯科大学 咬み合わせリエゾン診療科

20 矯正治療後に全身的不定愁訴を発症した咬合異常感の2症例

- 酒向 絵美²⁾、片桐 綾乃¹⁾、梅崎 陽二郎¹⁾、渡辺 素子¹⁾、竹之下 美穂²⁾、
佐久間 朋美²⁾、豊福 明¹⁾

1) 東京医科歯科大学大学院 歯科心身医学分野、
2) 東京医科歯科大学歯学部附属病院 歯科心身医療外来

21 口腔心身症患者の森田理論認識状態についてのアンケート調査—メタファーを用いた面接対話時と催眠的トランス状態下での説示—

- 中野 良信、後藤 礼

市立枚方市民病院 歯科口腔外科

22 ヒトの心理状態が歯の色彩認知に及ぼす影響

- 東田 一仁¹⁾、坂井 信之²⁾、裕 哲崇³⁾、堀田 正人¹⁾

1) 朝日大学歯学部 口腔機能修復学講座 歯科保存学分野歯冠修復学、
2) 東北大学大学院文学研究科 心理学研究室、
3) 朝日大学歯学部 口腔機能修復学講座 口腔生理学分野

23 歯冠形態にこだわりの強い患者に対する Digital Scan を応用したクラウン製作

- 田邊 憲昌¹⁾、金村 清孝¹⁾、浅野 明子²⁾、遠藤 寛¹⁾、山田 優貴¹⁾、武部 純¹⁾、
近藤 尚知¹⁾

1) 岩手医科大学歯学部 補綴・インプラント学講座、
2) 岩手医科大学歯学部 口腔機能回復学講座 う蝕治療学分野

24 日中のクレンジング習癖とエゴグラムの関係

- 金村 清孝¹⁾、田邊 憲昌¹⁾、浅野 明子²⁾、遠藤 寛¹⁾、山田 優貴¹⁾、武部 純¹⁾、
近藤 尚知¹⁾

1) 岩手医科大学歯学部 補綴・インプラント学講座、

2) 岩手医科大学歯学部 口腔機能回復学講座 う蝕治療学分野

10:20～11:00 一般口演25～28

芙蓉の間(3F)

座長：楠川 仁悟

25 口腔異常感症に対する東洋医学的対応 一意療について

- 小澤 夏生^{1,2)}、角田 和之²⁾、加藤 伸²⁾、佐藤 英和²⁾、角田 博之²⁾、
中川 種昭²⁾、永井 哲夫²⁾

1) 小澤歯科醫院、2) 慶應義塾大学医学部歯科・口腔外科学教室

26 ミルナシプランにより症状が消退したインプラント治療後の 口腔異常感症の1症例

- 吉田 光希¹⁾、佐藤 英樹¹⁾、高井 理衣¹⁾、佐藤 惇¹⁾、山崎 真美¹⁾、西村 学子¹⁾、
松岡 紘史^{2,3)}、千葉 逸朗²⁾、森谷 満⁴⁾、安彦 善裕¹⁾

1) 北海道医療大学歯学部 生態機能・病態学系臨床口腔病理学分野、北海道医療大学病院
「口腔内科相談外来」、

2) 北海道医療大学歯学部口腔構造・機能発育学系保健衛生学分野、

3) 北海道医療大学病院・医療心理室、

4) 北海道医療大学病院個体差医療科学センター医学部門(内科・心療内科)

27 味覚障害患者に対するロフラゼブ酸エチルの効果

- 坂田 健一郎、山崎 裕、秦 浩信、中村 裕介、村井 知佳、北川 善政
北海道大学大学院歯学研究科口腔診断内科学教室

28 うつ病治療中に咀嚼機能異常感を訴えた一症例

- 松岡 紘史¹⁾、吉田 光希²⁾、佐藤 英樹²⁾、齊藤 正人³⁾、千葉 逸朗¹⁾、
安彦 善裕⁴⁾

1) 北海道医療大学歯学部 保健衛生学分野、2) 北海道医療大学大学院 歯学研究科、

3) 北海道医療大学歯学部 小児歯科学分野、4) 北海道医療大学歯学部 口腔病理学分野

11:10～12:15 特別講演

芙蓉の間(3F)

座長：藤澤 政紀

「顎口腔系のバイオフィードバックをはかる」

石橋 寛二 岩手医科大学名誉教授

12:20～13:20 評議員会 瑞光の間(3F)

13:20～13:50 総 会 芙蓉の間(3F)

14:00～15:30 シンポジウム 芙蓉の間(3F)

コーディネーター：玉置 勝司

「咬合違和感の実態に迫る」

S-1 咬合違和感を訴える患者の発症原因とその実態を考える

玉置 勝司 神奈川歯科大学顎口腔機能修復科学講座 有床義歯補綴学分野

S-2 多種多様な咬合違和感への対応

小見山 道 日本大学松戸歯学部顎口腔機能治療学講座

S-3 咬合違和感に対する精神心理的側面を探る(61症例からの検討)

尾口 仁志 鶴見大学歯学部高齢者歯科学講座

S-4 咬合異常感患者との遭遇 —このような患者さんいませんか—

佐藤 佑介 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
口腔機能再構築学系摂食機能回復学講座 全部床義歯補綴学分野

15:30～ 閉会の辞 芙蓉の間(3F)

特別講演
教育講演
シンポジウム

顎口腔系のバイオフィードバックをはかる

石橋 寛二

岩手医科大学 名誉教授

顎関節を中心とした顎口腔系に痛みや運動制限を認める状態を顎関節症あるいは顎機能障害と言います。これは咬合異常やストレスによって発症すると指摘されており、そのストレスの背景には個体を取り巻く環境と個体の心理特性が関与していると考えられます。ストレスの増加によって生じるブラキシズムは咀嚼筋痛を誘発し、頭頸部の不快症状を招くことから、その対応に苦慮することが少なくありません。

ブラキシズムにはグライディング、クレンチング、タッピングがありますが、なかでも日中のクレンチングは自覚されないことが多く、咀嚼筋痛や開口障害の原因となります。日常生活環境下で生じるクレンチングを認識することは、咀嚼筋痛を惹き起す因子を取り除くために必要なことです。

私たちは個体の環境・心理特性との関わりで顎関節症にアプローチする視点から、行動療法としてのバイオフィードバックによるセルフコントロールを追究してきました。バイオフィードバックとは、普段気付かない生体情報を信号に変えて認知させ、意識させる方法です。顎口腔系におけるバイオフィードバックは、咀嚼筋痛、ブラキシズムの制御、開口訓練、咬合バランスの確認などに応用されます。

日常生活環境下の使用に適する EMG バイオフィードバック装置を開発し、臨床応用を進めました。この装置は小型、軽量で日常行動を制限することなく、長時間の連続使用を可能としました。その結果、EMG バイオフィードバック療法はクレンチング習癖者における日中のクレンチングを効果的に減少させること、また日中のクレンチングは高度の不安傾向と関連があることが示されたのです。

ストレスの増大によって生じるブラキシズムは咀嚼筋痛を誘発し、日常生活の支障を招くことから疾病の予防あるいは早期の治療が求められます。自己制御を支援するバイオフィードバックは、現代社会におけるストレスマネジメントとして有用な行動療法であると考えます。

略 歴

- 1970年 日本大学歯学部卒業
- 1975年 新潟大学歯学部講師
- 1978年 新潟大学歯学部助教授
- 1979年 岩手医科大学歯学部助教授
- 1980年 岩手医科大学歯学部教授
- 1983年 岩手医科大学大学院歯学研究科担当
- 1992年 岩手医科大学歯学部附属病院長
岩手歯科技工専門学校長
歯科医師試験委員（厚生省）
- 1999年 歯科医師試験委員長（厚生省）
- 2001年 日本顎顔面補綴学会理事長
- 2002年 日本歯科審美学会会長
- 2003年 厚生労働省医道審議会専門委員（歯科医師分科会員）
- 2007年 厚生労働省医療技術参与
厚生労働省医道審議会臨時委員（歯科医師分科会員）
- 2011年 岩手医科大学名誉教授

顔グセの法則 —インプレッショントレーニング®—

重田 みゆき

株式会社エムスノージャパン
インプレッショントレーナー®

『印象行動学』という新しい切り口で、ヒューマンサティスファクションを起す。これが私が全国各地で実践している印象力 UP トレーニングです。企業や病院における接客・接客研修のみならず、大学などの教育機関においても次世代のコミュニケーションスキルアップ研修として、取り入れていただいております。現在ではアジア圏含め、5万人程の皆様に、このインプレッショントレーニング®を体験していただいております。

昨今では、このトレーニングは、「フェイシャルフィードバック効果」による、ストレスケアとしても大きく注目をいただくようになり、東日本大震災の影響で負担を抱えている多くの被災者の方々、学生のみなさんにおいても、このトレーニングを次々と取り入れていただき効果を実感していただいております。

私は著書『人は0.5秒で選ばれる！』でも訴えてまいりましたが、アメリカの心理学者ジョン・マナー氏も、2007年10月に発表した研究成果で、人は出会ったその瞬間の0.5秒で好きか嫌いかだけでなく、敵か味方かまでも判断をしてしまうと発表して話題になりました。今回の講演では、この0.5秒間で最も効果を発揮する、皆様にかかわりの深い『表情』の伝達方法を、具体的なトレーニングを交え、実践形式で体験していただきます。

信頼される医院と呼ばれるには、技術力×印象力の両方が必要です。素晴らしい医療技術や施設が備わっていても、患者さんは、院長やスタッフの無表情や微表情、ちょっとした言動一つで、大きな不安に落とされる場合があります。患者さんや、そのご家族の立場になって考えてみますと、不安な気持ちで医院を訪れることが多いはずで、診察室に入ったときの先生の優しい表情や、看護師さんの温かい雰囲気、そして受付さんの思いやりに満ちた表情での対応は、患者さんにとって、大きな安心感をもたらすことでしょう。

医療従事者一人ひとりの、ホスピタリティ溢れるインプレッションで、医院全体の雰囲気を盛り上げていくのか、または、知らなかったことを理由に「無

表情」で盛り下げてしまうのか、たった一人の影響力はとても大きいのです。ぜひ、各医院のシチュエーションを考えながら、このトレーニングを体験していただきたいです。

口元、目、頬、顔のパーツを存分に鍛えあげて、周りから喜ばれる、「笑顔あふれる顔グセ」を身につけていきましょう。

略 歴

日本初 インプレッショントレーナー[®]

日本航空『国際線客室乗務員』として、世界主要60都市以上のフライトを経験し、ホスピタリティあふれるそのサービスが人気を呼ぶものの、病気を患い退職。その後、周囲の大きな声援を受け克服し、JAL ウェイズに入社。再び国際線キャビンアテンダントとして、念願の復活を果たした。そこでの、接客姿勢が多くのお客様から喜ばれ、『グッドパフォーマンス賞』を受賞するなど、数々の褒賞を受ける。

都内老舗ホテルに在籍していた際は、パート社員からわずか1ヵ月足らずで、VIP ラウンジのマネージャーに抜擢され、1年半後には、社長室室長も兼任した異例な経歴の持ち主でもある。

現在では、日本初のインプレッショントレーナー[®]として、アジア各国メディアからも特集され、インプレッショントレーニング[®]が効果抜群と大人気になり、上海万博では、現地中国人スタッフの教育も実施。年間250回程度の講演トレーニングを毎年展開している。

著書は「顔グセの法則」「人は0.5秒で選ばれる！」ともに、中国、台湾、澳門、韓国、シンガポール、マレーシアなど、アジア各国で順次翻訳出版中。

昭和61年～平成2年3月	私立独協大学経済学部経営学科卒業
平成2年6月～平成6年3月	日本航空株式会社 第一国際客室乗務員部所属
平成6年4月～平成7年3月	ヒューマンアカデミー NFD フラワーデザイン科卒業
平成12年12月～平成16年8月	(株)JAL ウェイズ キャビンアテンダント(リゾッチャ線、バンコク線を担当) 接客 MVP である『グッドパフォーマンス褒賞』受賞
平成13年6月～現在に至る	各種専門学校 都内大学数校にて就職面接対策講座特別講師 ホスピタリティー系企業・医療機関 CS 研修
平成16年9月～平成19年2月	株式会社 丸ノ内ホテル 社長室・室長 兼メンバーズファミリア・マネージャー
平成19年3月～	株式会社 エムスノーージャパン 取締役 インプレッショントレーナー [®] 就任
平成20年度～	亜細亜大学 非常勤講師(重田みゆきゼミ) 経営学部 ホスピタリティー専攻『ホスピタリティー経営論』
平成22年7月4日～現在	株式会社エムスノーージャパン 代表取締役社長 インプレッションマスター [®] 就任 印象行動学研究開始

咬合違和感の実態に迫る

コーディネーター

玉置 勝司

多くの歯科臨床医が日常臨床において“咬合違和感”を訴える患者に遭遇した経験をお持ちであろう。そして、その患者に対する先生方の印象は、また実際に治療した時の結果はどうであっただろうか。きっと、多くの先生方は難しい患者さんの範疇に入るのではないだろうか。

海外でも古くから“咬合違和感”に相当する用語として、Occlusal Habit Nerosi (Tishler, 1928), Positive Occlusal Sense (Posselt, 1962), Occlusal Neurosis (Ramfjord, 1961), Phantom Bite Syndrome (Marbach, 1976), Positive Occlusal Awareness (Okeson, 1985), Persistent uncomfortable Occlusion (Harris et al, 1993), Proprioception Dysfunction (Green, Gelb, 1994)などが報告されている。最近では、咬合違和感に近い用語として、Clarkらによる“Occlusal dysesthesia”が提唱され、「歯髄疾患、歯周疾患、咀嚼筋ならびに顎関節疾患のいずれもが認められず、臨床的に咬合異常が認められないにもかかわらず6カ月以上持続する咬頭嵌合位の不快感」と定義されているが、その実態についてはまだまだ不明な点が多いのが実情であろう。

そこで、今回は咬合違和感をもつ患者に対して長年にわたり真摯に取り組まれている先生方の臨床経験や調査結果などを公表していただき、本学会の会員の先生方に、まずは“咬合違和感”の患者の実態について理解していただき、現段階でのコンセンサスを提示できるようなシンポジウムにしたと考えている。そして、何よりも先生方の日常臨床に役立っていただければ幸いである。

今回の日本歯科心身医学会総会・学術大会において、このような難しいテーマに焦点をあてシンポジウムを企画してくださった藤澤政紀大会長、豊福 明理事長に深く感謝する次第である。また、今回は咬合違和感を有する患者の存在をまず認識していただき、今後も継続して本テーマを取り上げていただき、本学会において本学会の会員とともに一定のコンセンサスが得られることを期待している。

咬合違和感を訴える患者の発症原因と その実態を考える

玉置 勝司

神奈川歯科大学顎口腔機能修復科学講座有床義歯補綴学分野

歯科臨床の中で、一般的に“難しい症例”というのがいくつかある。根管が極度に彎曲していてリーマーが到達しない、歯根全周にわたる歯槽骨の吸収があり保存が困難である、臼歯部に補綴スペースがなく補綴治療が困難である、下顎無歯顎患者で顎堤の著しい吸収があり義歯の維持・安定が確立できないなどの症例などである。これらは確かに難症例であるが、その多くは当該部位における解剖学的形態の問題が主体であり、それは客観的（他覚的）に確認することができるものがほとんどである。

このような難症例の中に、“咬み合わせに関する異常感や違和感”を訴えるが、それに対応する客観的所見を確認できないような症例の存在がある。「歯の当り方がおかしい」と患者が訴えると、歯科医師は咬合状態を観察し、通常、咬合紙を用いて確認はするものの、咬合接触状態に異常は見つからない。しかしながら、患者の咬合に対する執拗な訴えに対して歯科医師は患者に「どの辺ですか?」と部位を確定してもらい、「これくらいでいいですか?」と患者の感覚主導型の治療に陥ってしまうのである。その結果、患者の症状は改善するばかりか、さらに悪化してしまうこともあり、歯科医師も混乱してしまう。そして、患者－歯科医師関係が壊れ、最終的には泥沼状態になってしまう。一生懸命な歯科医師なほど情けない状況に陥ってしまう。

著者らは、神奈川歯科大学“かみ合わせ外来”(2001年開設)時から、現在の“咬み合わせリエゾン診療科”(2007年以降)において、あらゆる咬合違和感を訴える患者を多数経験している。歯科処置単独で症状が軽減、消失する場合もある。また本診療科の特徴であるリエゾン診療により症状が寛解する場合も経験するが、未だ対応に苦慮する症例もあり、咬合違和感を訴える患者の症状の本質は画一的なものではなく、種々の要因が関与した複雑な病態であると考えている。

そこで、神奈川歯科大学咬み合わせリエゾン診療科における咬合違和感の患者の発症原因からその実態について、報告したいと考えている。また、近年の脳機能の検査手法の発達により、末梢からの入力信号が脳血流量に及ぼす影響

一般口演

1日目

9月1日(土)

01 当科初診患者の臨床統計的検討

Clinico-statistical study on out patients in Psychosomatic Dentistry Clinic

○渡邊 素子¹⁾、片桐 綾乃¹⁾、梅崎 陽二郎¹⁾、竹之下 美穂²⁾、佐久間 朋美²⁾、酒向 絵美²⁾、
豊福 明¹⁾

1) 東京医科歯科大学大学院 歯科心身医学分野、2) 東京医科歯科大学歯学部附属病院 歯科心身医療外来

○Motoko Watanabe¹⁾, Ayano Katagiri¹⁾, Yojiro Umezaki¹⁾, Miho Takenoshita²⁾, Tomomi Sakuma²⁾,
Emi Sakou²⁾, Akira Toyofuku¹⁾

1) Division of Psychosomatic Dentistry, Graduate School, Tokyo Medical and Dental University, Tokyo, Japan

2) Psychosomatic Dentistry Clinic, Dental Hospital, Tokyo Medical and Dental University, Tokyo, Japan

【目的】 当科における外来初診患者のデータから、歯科心身症の実態を把握する。

【方法】 2009年4月1日～2012年3月31日の3年間に当科を初診した患者1210名を対象とし、外来診療録を基に、性別、年齢、居住地、紹介元、診断名、精神科的既往、転帰等を retrospectively に検討した。

【結果】 対象のうち、男性は221名(18%)、女性は989名(82%)で、年齢は12歳から92歳、平均 58.3 ± 14.5 歳で60代が最多であった。疾患別では舌痛症が678名(48%)、非定型歯痛221名(16%)、口腔異常感症317名(22%)、咬合異常感100名(7%)、顎関節症19名(1%)であった。紹介元は歯科が406名と最多で、次いで内科460名、精神科・心療内科295名であった。精神科的既往は既往なしが692名(57%)であった。転帰は著明改善、改善が約45%を占め、やや改善を含めると約70%であった。また疾患別では口腔異常感症が舌痛症や非定型歯痛に比べて予後不良で、精神科的既往の有無別では既往有りが既往なしに比べて予後不良であった。

【結論】 当科初診患者データでも、性別・年齢では中高年の女性が多く、疾患別では舌痛症が最多で、過去の報告と一致する結果となった。また、舌痛症や非定型歯痛等の口腔内疼痛の訴えが64%を占め、その予後は口腔異常感症に比べて良好であった。精神科的既往の有無も予後に関与している可能性が示唆され、改めて精神科的既往の確認が重要であると考えられた。

キーワード：臨床統計、歯科心身症、精神科的既往

02 平成21年から平成23年に当科を受診した非定型歯痛患者の臨床的検討

Clinical study on patients with Atypical Odontalgia

○渡邊 素子¹⁾、竹之下 美穂²⁾、片桐 綾乃¹⁾、梅崎 陽二郎¹⁾、酒向 絵美²⁾、佐久間 朋美²⁾、佐藤 佑介³⁾、豊福 明^{1,2)}

- 1) 東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 歯科心身医学分野、
- 2) 東京医科歯科大学歯学部附属病院 歯科心身医療外来、
- 3) 東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 全部床義歯学分野

○Motoko Watanabe¹⁾, Miho Takenoshita²⁾, Ayano Katagiri¹⁾, Yojiro Umezaki¹⁾, Emi Sako²⁾, Tomomi Sakuma²⁾, Yusuke Sato³⁾, Akira Toyofuku^{1,2)}

- 1) Psychosomatic Dentistry, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Tokyo Medical and Dental University
- 2) Psychosomatic Dentistry Clinic, Tokyo Medical and Dental Hospital, Faculty of Dentistry
- 3) Complete Denture Prosthodontics, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Tokyo Medical and Dental University

【目的】非定型歯痛は、臨床的にも X 線上でも異常が認められない歯や、抜歯した部位に生じる疼痛と定義されているが、未だ不明な点も多い。今回当科を受診した非定型歯痛患者の臨床的特徴や処方を検討したので報告する。

【対象と方法】2010年1月～2011年12月の当科初診患者のうち、非定型歯痛と診断された118名。診療録と診療情報提供書をもとに性別、年齢、痛みの程度、精神科病名、初診時処方等について retrospective に検討した。

【結果】性別は男性18名、女性100名、年齢は15歳から82歳で平均53.2 ± 15.6歳であった。痛みの程度はVASで平均50.2 ± 30.0であった。併発していた歯科心身症は、舌痛症31.4%、口腔異常感症16.1%、非定型顔面痛11.0%、咬合異常感8.5%で、精神科病名は、なし54.2%、うつ病16.1%、身体表現性障害・不安障害・疼痛性障害15.3%であった。初診時処方はアミトリプチリン22.0%、ミルタザピン11.0%、デュロキセチン6.8%で、改善率は74.2%であった。

【結論】今回の結果では、併発している歯科心身症は舌痛症や口腔異常感症があり、非定型歯痛の病態の単なる神経障害性ではない複雑さが窺えた。抗うつ薬の効果は期待できるが、精神科疾患を有する患者もいることから、処方には十分な注意が必要と考えられた。

キーワード：非定型歯痛、歯科心身症、疫学調査

一般口演

2日目

9月2日回

18 日中のクレンチングに対するバイオフィードバック訓練が夜間のブラキシズムに及ぼす影響

Effect of Daytime Clenching Biofeedback on Sleep Bruxism

○佐藤 雅介¹⁾、飯塚 知明¹⁾、渡邊 明¹⁾、岩瀬 直樹¹⁾、岡本 和彦²⁾、島野 偉礎轄³⁾、藤澤 政紀¹⁾

1, 2) 明海大学歯学部 機能保存回復学講座歯科補綴学分野、3) あさひ歯科クリニック

○Masayuki Sato¹⁾, Tomoaki Iizuka¹⁾, Akira Watanabe¹⁾, Naoki Iwase¹⁾, Kazuhiko Okamoto²⁾, Isokatsu Shimano³⁾, Masanori Fujisawa¹⁾

1) Division of Fixed Prosthodontics, School of Dentistry, Meikai University

2) Division of Removable Prosthodontics, School of Dentistry, Meikai University

3) Asahi Dental Clinic

【緒言】 夜間ブラキシズムの制御は、歯科临床上における大きな課題の一つである。今回、日中のクレンチングに対する携帯型筋電計バイオフィードバック装置 (EMG-BF 装置) を用いた、バイオフィードバック訓練 (EMG-BF 訓練) が夜間のブラキシズムに及ぼす抑制効果を調べることを目的として本研究を行った。

【材料と方法】 日中のくいしばりを自覚する、ないしは夜間の歯ぎしりを指摘された被験者 10 名 (男性、 27.8 ± 2.4 歳) をバイオフィードバック群 (BF 群) とコントロール群 (CO 群) にそれぞれ 5 名ランダムに振り分け、3 週間の日中および夜間睡眠時の測定を行った。1 週目および 3 週目は EMG 測定を行った。2 週目に、BF 群では EMG-BF 訓練を行い、CO 群では EMG 測定を行った。各週のブラキシズム平均イベント数に対して、two-way repeated measures ANOVA と、その後の多重比較に Tukey の HSD 検定を用いた。

【結果】 日中および夜間睡眠時で、BF 群において、2 週目および 3 週目の平均イベント数が、1 週目に対して有意な減少を認めた。

【考察】 日中の EMG-BF 訓練によるクレンチング抑制に伴い、夜間のブラキシズムイベントも減少したと考えられる。

【結論】 日中のクレンチングに対する EMG-BF 訓練が、夜間のブラキシズムに抑制効果を示すことが示唆された。

キーワード：ブラキシズム、クレンチング、バイオフィードバック

19 臼歯咬合面の部分的咬合干渉が意識下グライディング時の脳血流に及ぼす影響について：fNIRS による咬合違和感の定量化の検討

Change in cerebral blood flow due to partially occlusal interference during posterior tooth grinding in consciousness : an fNIRS study of the quantification

○小林 剛¹⁾、葉山 莉香²⁾、島田 淳²⁾、澁谷 智明²⁾、和気 裕之²⁾、玉置 勝司^{1,2)}

1) 神奈川歯科大学顎口腔機能修復科学講座有床義歯補綴学分野、2) 神奈川歯科大学 咬み合わせリエゾン診療科

○Kobayashi Goh¹⁾, Hayama Rika²⁾, Shimada Aatsushi²⁾, Shibuya Tomoaki²⁾, Wake Hjiroyuki²⁾, Tamaki Katsushi^{1,2)}

1) Removable Prosthetics, Dept. of Oral & Maxillofacial Rehabilitation, Kanagawa Dental College

2) Dept. of Occlusion & Liaison in Kanagawa Dental Hospital

【目的】 現在、咬合違和感に関する調査報告は少なく、その原因についてはまだ解明されていない。今回の研究では、近赤外線分光法 NIRS を用いて、健常者の咬合違和感時における脳活性を解明することである。

【方法】 正常咬合者10名(男性：7名、女性3名、平均28.0歳)を被検者とした。被検者に厚さ12 μ mのメタルストリップス(オクルーザルレジストレーションストリップス)を修復物のない大白歯部でグライディングをさせ、ストリップスを1枚ずつ重ねていき、被検者が明確な違和感として確認できる場所でその厚さを記録した。次に、その厚みのストリップスを嵌合させた状態で30秒間ごとにグライディングと安静咬合位での休憩を5回繰り返し、機能的近赤外分光法(fNIRS)を用いて前頭部の脳血流変化(Oxy-Hb濃度)を測定した。測定終了後、違和感の自覚度をVAS値で評価し記入した。コントロールとして、臼歯部にストリップスを嵌合させない状態で同様の測定を行った。

【結果と考察】 各被検者においてコントロール時に対するストリップス嵌合時のVAS値とOxy-Hb濃度の変化量を比較したところ、右前頭前野部のOxy-Hb濃度がVAS値の増大に伴って増加する傾向が認められた。このことは、被検者の主観的咬合違和感の増大を前頭前野部のOxy-Hb濃度変化を用いて定量的に評価できる可能性を示唆している。

キーワード：咬合異常感、近赤外線分光法(NIRS)、脳血流変化(Oxy-Hb濃度)

協賛企業一覧(50音順)

株式会社松風

スリーエムヘルス株式会社

株式会社ツムラ

ノーベル・バイオケア・ジャパン株式会社

白水貿易株式会社

豊前医科株式会社

株式会社モリタ

協 賛 展 示

サンデンタル株式会社

株式会社トクヤマデンタル

株式会社ベルテック

株式会社マイクロテック

第27回日本歯科心身医学会総会・学術大会

大会長：藤澤 政紀

事務局：明海大学歯学部 機能保存回復学講座 歯科補綴学分野

〒350-0283 埼玉県坂戸市けやき台1-1

TEL：049-285-5511 FAX：049-279-2751

E-mail：27shikashinshin@dent.meikai.ac.jp

出版： 株式会社セカンド
<http://www.secand.jp/>

〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F

TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025

● 第27回日本歯科心身医学会総会・学術大会事務局

**明海大学歯学部 機能保存回復学講座
歯科補綴学分野**

〒350-0283 埼玉県坂戸市けやき台1-1
TEL: 049-285-5511 FAX: 049-279-2751
E-mail: 27shikashinshin@dent.meikai.ac.jp